



多くの学びを得た修学旅行 沖縄の気候・平和・文化・・・

6月16日(日)から3日間、9年生が沖縄に修学旅行に行ってきました。コロナ禍の4年前は2度延期しての滋賀、次の2年間は長崎。そして今年、4年ぶりの沖縄。沖縄修学旅行から多くのことを学ぶことができました。

① 1つ目は、めまぐるしく天候が変わる亜熱帯気候沖縄の自然環境を実体験することができました。

●1日目は、那覇空港周辺が濃霧のため、出発前の伊丹空港で機内1時間待機となりましたが、添乗員や見学先のご協力もあって、ほぼ予定通りのプログラムを行うことができました。JALキャビンアテンダントの方が、何度も私の自席までお詫びに来られました。飛行機を降りるときも「能勢ささゆり学園の生徒のみなさん、思い出に残る修学旅行にしてください。」と機内放送が流れました。

●2日目は、伊計ビーチでのマリンスポーツ体験。前日からの雨マークの天気予報とは打って変わって、朝から雨に降られることもなく、時々晴れ間も見えるくらいの天候のもと、バナナボート・グラスボート・ビーチレク・砂遊びなど、思いきり体験できました。波打ち際でヤドカリをつかまえて、砂を固めた「ヤドカリの城壁？」づくりに没頭する生徒と仲間の姿もありました。時の流れが止まったような貴重な体験でした。

●3日目は、早朝よりどしゃぶりの大雨。警報が発令されたものの、本部・添乗員・民泊協会・ホームステイ先・学校と、ごまめに連絡をとり合いながら、予定を1時間遅らせました。小康状態になった雨の中、退村式はキャンセルし、民泊所有の自家用車を観光バスのトランク付近に横付けしていただき、びしょ濡れになることなく、「チームささゆり教職員」で大きな荷物を積み込み、スムーズにバスに乗車することができました。最大の楽しみだった国際通りの散策は、予定通りおこなうことができました。



② 2つ目は、日本で唯一の地上戦の地となった沖縄戦の歴史を体験できたことです。

●長さ270mもある自然洞窟「系数アブチラガマ」(南城市系数)。日本軍の陣地壕や倉庫として使用され、陸軍病院の分室となって、ひめゆり学徒隊が看護活動をおこなったところです。軍手にヘルメット、懐中電灯を照らしながら真っ暗闇の中で、ガイドの方から当時の様子を伺いました。戦時中、ガマの中で沖縄の人々が想像を絶するような苦しみを受け、多くの尊い命が犠牲になったことを私たちは決して忘れてはいけません。そして、学び続けていく責任を強く感じました。

●「ひめゆり平和祈念資料館」(糸満市伊原)では、9年生の見学姿勢がとても素晴らしかったです。入口から展示物や説明書きを必死にメモをとる姿勢や証言者動画を真剣に見る姿に感心しました。添乗員さんから「すべての生徒がこれだけ一生懸命見学する学校は珍しいです。すごいです」とほめていただきました。

●「平和祈念公園」(糸満市摩文仁)では、6月23日(沖縄では6月23日は公休日。沖縄慰霊の日)に開催予定の沖縄全戦没者追悼式の会場準備が行われていました。9年生代表実行委員が堂々と読み上げた平和宣言に心打たれました。昨年先輩から学んだ長崎のこと、小6の時に広島で学んだこと、地上戦の場となった沖縄で学んだことが宣言文に盛り込まれていました。これらのことを後世に語り伝えていきたいという強い意志を感じることができました。能勢と沖縄の交流には、平和教育の分野で深い歴史があります。先輩の教職員や彫刻家などが能勢と沖縄を歩き来してきました。今も沖縄から平和・戦争・歴史・基地・民舞・歌・彫刻などについて学んでいます。現在も長崎の資料館や沖縄のガマには、金城実さんという彫刻家の作品が飾られています。能勢にも彫刻家金城実さんのレリーフを杉原集会所横で見ることが出来ます。毎年、4年生が社会科の授業で杉原集会所を訪問し、レリーフから多くのことを学習しています。

